

Topics

- ①特集 - フィリピン障害者支援事業レポート
- ②海外支援事業レポート
- ③メンバー活動報告
- ④事務局だより・会計報告

障害者の可能性を閉ざさない フィリピンたった1つの盲学校の挑戦

フィリピン障害者支援事業レポート

フィリピンの視覚障害者が社会参加のための適切で質の良い教育を安全で健康的な環境で受けられ、ひいては高等教育への進学や就職をし自立できるよう、フィリピン国立盲学校と連携し、下記の2つの活動に2016年6月～2018年1月にかけて取り組み、実施しました。そして、2018年1月には盲学校にて在フィリピン日本大使ご夫妻やパサイ市長夫人、教育関係者出席のもと引き渡し式を行いました。



(左) 天井が低く、熱がこもりがちだった寮



(右) 天井が高くなり、風通しが良くなりました。



点字プリンタと JAWS とともに
笑顔と関係者



印刷中の点字プリンタの横に立つ
石田とそれを見守るラニー先生



盲学校で行われた引き渡し式で行われた寄付者銘板お披露目

寮 修繕 事業

築48年を迎えようとしていた寮が、生まれ変わりました。

修繕箇所は、まず、劣化していた木製の屋根を、スチール、断熱材、木材の3構造の屋根に交換し、太陽の熱が寮の内部に伝わらない構造にしました。さらに、以前は天井が低くて熱がこもりやすく、2段ベッドの上段と天井との間は1メートルもないような状況でした。そのように平面だった天井を、山形の屋根にしたことで、内部の空間を広げました。

また、扇風機やエアコンを設置し、下の階にある教材準備室の機器を稼働させても電圧が十分ないように、建物全体の電気回路を増設し付け替えました。その他バスルームのタイルの張り替えや非常ベルの設置、壁の塗り直し等を行いました。

寮の環境が衛生的で涼しく、快適になったことにより、地方の生徒たちも安全で健康的に寮で暮らしながら、高校まで学び続けることが可能となりました。

点字プリンターと 画面読み上げソフト設置事業

2017年8月10日、盲学校について新しい点字プリンターと画面読み上げソフト JAWS が届きました。タイミングよく、石田が受け取りに立ち会うことができました。

170人以上の生徒たちに対して2台目となる点字プリンターは、日々稼働しています。点字プリンターが2台に増えたことで、生徒たちにより多くの教材が素早く提供できるようになりました。

ASEAN(東南アジア諸国連合)全体で行われる点字の読み書き競技会にて、この盲学校からは2年連続で優勝者が出ています！限られた環境で最大限学び取る生徒たちの意欲を、新たなプリンターが少しでも後押しできていたらと思います。



盲学校の生徒と石田

事業全体を振り返って



事業実施のための資金800万円を集めるクラウドファンディング(インターネット上で多数の人から資金を募る仕組み)を行ってから1年、途中で購入品が変更になったり、修繕工事開始までの手続きに手間取ったり等、色々なトラブルが起きる中、温かく見守り応援し続けてくださった皆様、本当にありがとうございます。安倍昭恵総理夫人ご来校やフィリピンの財団の会長さんの大口ご寄付などたくさんの奇跡の中で、200人を超える方々にご支援いただきました。達成の見込みなど何もないまま開始したクラウドファンディング。何百人という方が国を超えて応援してくださっている、気にかけてくださっていると感じることは、私だけでなく、フィリピンの視覚障害者たちにとって嬉しい原動力になりました。そして無事寮修繕工事が終了し、点字プリンタと画面読み上げソフトが届き、引き渡し式を迎えられました。

フィリピン国立盲学校や私たちフリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、沢山の奇跡的なご縁と、温かいご協力に恵まれました。そして私は、いつも画像の選定やレイアウト調整など視覚的に助けてくれる、大事なインターンに恵まれました。クラウドファンディングを通して皆様に巡り合えたこと、このような素敵な事業を担当できたことが、本当に幸せです。みなさまのあたたかいご支援、心より感謝申し上げます。(石田 由香理)

海外支援事業レポート | FreeTheChildren Project

International Support

ミンダナオ島マラウィ避難民復興支援

2017年5月より、フィリピン南部ミンダナオ島の西部にある南ラナオ州のマラウィ・イスラム市において、フィリピン軍と過激派組織「イスラム国」(IS)系武装勢力「マウテグループ」の戦闘が発生、激化したことにより、47万人以上の市民が国内避難民となりました。同年10月にはフィリピン国防相より終結宣言が発表されました。避難民となっていた人々は、自分の家へ戻る事が予想されますが、市内では激戦が繰り返されたことやIS武装勢力が、住民や街の所有物を略奪したため、すぐに生活をおくれるような状況ではありません。10月半ばにフィリピン教育省がステークホルダーフォーラムを開催し、そこで報告した情報によると、マラウィ市にあった69の学校のうち、22校が破壊され、学校が再開できない状況にあることがわかりました。

戦闘は終結しましたが、人々の生活再開についてや、地域の復興についてはまだこれから時間がかかることが予想されることから、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンでは、2017年12月より緊急支援から復興支援に切り替え、戦闘地域から避難している子どもとその家族の支援を行っています。第一弾として、子どもたちにノートやペンなどをセットにしたスクールキットやお米、水、石鹸タオルなどの生活用品を配布しました。



マラウィ避難民支援につながるチョコレート販売中!

価格の60%が
ミンダナオ島
マラウィ避難民
復興支援へ
の寄付に!



中高生が主体となってプロジェクトの企画、デザイン、パッキングや販売を行うチョコレートプロジェクトより生まれた商品です。

商品名は Ngiti。フィリピンで使われるタガログ語で、「笑顔」を意味します。チョコレートを食べた方、そしてフィリピンの子供たちが笑顔になることを願ってこの名前をつけました。

1袋3粒入り(ミルク/ストロベリー)で250円。価格の60% 150円がミンダナオ島マラウィ避難民復興支援への寄付となります。

2月のバレンタイン期間に、マロニエゲート銀座にてメンバーが販売し、とても好評いただきました。



進学・入学のお祝いやプチギフトとして、ぜひいかがでしょうか。

オンラインストアよりご購入いただけます。右記QRコードよりアクセスいただくか、FTCJで検索ください。

マクタニール養護施設運営支援 in インド



インドの西ベンガル州、コルカタにて、現地パートナー団体を通じて、路上や児童労働などから救出された子ども、家庭が貧困状態で育てることができなくなった子どもをマクタニール子どもの家で保護し、教育を受け、栄養ある食事で健康に暮らせるよう支援を行っています。

先日、マクタニール子どもの家を訪問しました。子どもたちは栄養ある食事をとり、元気に学校に通い、帰宅後は宿題をしたり、文通プログラムに参加している子どもたちは、日本のお友達へお手紙を書いたり、プレゼントの折り紙を作ったりしていました。

先住民族の子どもへの教育支援 in フィリピン ミンダナオ島



ミンダナオ島の台風被害に遭ったピナンシャン村に暮らす先住民族(ディババウォン族)のうち、中等教育を受ける年齢の子どもたちを対象にした通学のための奨学金サポートを行っています。

奨学金サポートは当初32人のサポートから始まり、4年目の2017年は15名の生徒がサポートを受けました。通学にかかる交通費補助の他に、文房具等の支給、生徒や先生のフォローアップ、そして家庭を訪問し保護者との面談を行いました。

マクタニールの子ども支援、先住民族の子ども支援は、文通プログラムを通して集まった資金とその他ご寄付を使い、事業を実施することができました。皆様のあたたかいご支援感謝申し上げます。

夏休み・ジュニアインターンレポート



写真：インタビューの SCRIPT を作り何度もペアで練習している様子

7月の夏休みに、都内の中学2年生が夏休みにジュニアインターンシップとして2日間業務をしに来てくださいました。日ごろ団体をご支援いただいているサポーターの方へのインタビューを実施しました。その様子をまとめました。インタビューに応じてくださった方々へスタッフ一同心より感謝申し上げます。

先日、私たちは学校の職業体験でフリー・ザ・チルドレン・ジャパン（以下 FTCJ）のオフィスにお邪魔しました。

そこで FTCJ について理解を深めた後、広報の業務に携わり、FTCJ に定期的な支援をして下さっている方々に電話でインタビューを行い記事を作成する仕事に取り組みました。4名の方へインタビュー記事、ぜひご覧ください。3名の方は、インタビュー内容を文章にまとめさせていただいております。



多田さまへのインタビュー

私：まず最初にどこでの寄付をご存知になりましたか？

多田さま：そうですね。最初は TV 番組の「世界一受けたい授業」（日本テレビ）で特集していたのを観て知りました。

私：元から寄付や NPO の活動に興味はお持ちだったんですか？

多田さま：はい。募金などを街で見かける度に参加していました。

私：なぜフリー・ザ・チルドレンへ寄付をなさろうと思いましたか？

多田さま：この団体について知った時に、団体の方針や考え方が気に入りました。苦しい生活を送っている人々の支援とはいってもただ物資を提供するだけではなく学校などを建てて教育などの継続的な支援に及ぶという団体のスタンスを知り、支援しようと思いました。

私：寄付をなさって多田さん自身に何か変化はございましたか？

多田さん：そうですね。毎月定期的に寄付をすることで社会の役に立つという気持ちを味わっています。

私：ありがとうございます。



インタビューを終えて



5分以下という短い時間内でのインタビューでしたが、僕は様々な事を学ぶことができました。例えばこの団体に寄付をなさる理由はこの団体の姿勢に強く共感したからということ

ところで、僕は多田さんの寄付にかける気持ち、援助を受け取る現地の人々への思いを感じ取ることができました。また、定期的な支援は社会の役に立っているという実感を得られるというところでは、僕もいつか成長し収入を得られるようになったら定期的な支援を試みようと思えました。

最後に、貴重な時間を割いてインタビューに答えてくださった多田さま、ありがとうございました。

黒木さまへのインタビュー

まず最初に黒木様がこの寄付をどこで知られましたかという質問をしたところ、「娘さんがフリー・ザ・チルドレンに入っていることだった」とおっしゃっていました。もともと寄付に興味はお持ちになっていたのですが、娘さんが頑張っている姿を見て、お母さまの黒木さまもお手伝いしたいなと思い、寄付することを決めたそうです。また、一人でも多くの子供達が助けられるように願っていますとおっしゃっていました。

寄付をして何か変わったことはありますかという質問に対しては、「世の中のいろいろな問題に目を向けるようになった」とおっしゃっていました。黒木様自身にも寄付はプラスになったと答えていただきました。最後にメッセージをお預かりしたので、紹介させていただきます。「みなさん、遊びたい時期だとは思いますが、子供達のために頑張ってください」

ご協力いただいた黒木様
ありがとうございました。

KW さまへのインタビュー

KW さまが寄付のことを知るきっかけになったのは、お子さんが通っていた学校の知り合いに FTCJ のスタッフがおり、自分も寄付できたらなあと思ったのがきっかけで、行動に移してくださったそうです。

どのような願いを込めて寄付をされていますかという質問に対しては、「少しでも世界に役立つ資金になればという願いがあります」とおっしゃっていました。寄付をして何か変わったことはありますかという質問には、「他の寄付に目を向けるようになった」とおっしゃっていました。また、「中学3年生の子どもの親として、話もできたり、生活にいきている」とおっしゃっていました。最後にご協力いただいた KW さま、ありがとうございました。

MH さまへのインタビュー

MH さまが FTCJ の寄付を知ったのは、知り合いの方が寄附をされていたからだそうです。当時12歳だったカナダのクレイグ君が設立した団体だというのがすごいと思ったこと、寄付で社会に貢献できるのはとてもいいことだと思ったことから、この団体に寄付を始めたそうです。元々、NPO には興味を持たれていて、自分の子供はしっかり教育を受けられて恵まれているのに対し、世界には大変な思いをしている子もいて、教育は子供にとってとても大事なもののにそれを受けられないのは気の毒だと思い、そんな子供が教育を受けられたらいいというのも寄付の一つの理由だそうです。寄付をしてよかったと思うのは、テレビで FTCJ のことについて取り上げているときで、その放送を見たときには「寄付してよかった」と思われたそうです。その方は、「陰で応援できるのはやはりいい、自分のプラスになった」とおっしゃってくださいました。ご協力ありがとうございました。



昨年末から今年にかけ、多方面で表彰いただきました。これを励みに、邁進してまいります！

Readyfor 賞

Readyforを通じて、フィリピン盲学校支援を行いました。そのプロジェクトが「多くの人から共感され、クラウドファンディングのお手本となるようなプロジェクト」として選ばれ、表彰されました。



JANIC 組織強化大賞

フリー・ザ・チルドレンがこれまで取り組んできた、スタッフの子連れ出勤・在宅勤務制度、障害者の雇用、子どもメンバーのためのチャイルドプロテクションの制定などの取り組みが評価され、「女性スタッフの登用・活躍」部門賞を受賞することができました。



アーユス新人賞

アドボカシー事業リーダーの河本千夏が、国際協力 NGO の活動経験が短いながらも、今後さらなる活躍が期待され、国際協力 NGO の将来を背負っていくと期待される個人に授与される「アーユス NGO 新人賞」を受賞しました！

会計報告

いつも皆様のご寄付、ご支援に心から感謝いたします。

2017年12月末の会員数、キッズパワー募金登録者数、文通プログラム登録者数、および2017年11月・12月の寄付金状況、ご寄付いただいた皆さまのご報告をいたします。2018年1月～の会員数、キッズパワー募金登録者数、文通プログラム登録者数、および寄附金状況につきましては次回のニュースレターにてのご報告とさせていただきます。ご了承ください。

正会員 31名
子どもメンバー 336名
ユースメンバー 516名
キッズパワー募金 90名
文通プログラム 45名

【寄付金状況】
2017年11月～12月

■寄付金合計
1,241,805 円

2016年度1月～12月末
目標：10,794,000円 実績 20,465,976円
達成率 189%

2017年度1月～12月末
目標：23,800,000円 実績 17,499,017円
達成率 73%

【ご寄付いただいた皆様】(敬称略・順不同)

■個人様
竹中研二、倉持あつこ、上野友美、木村真典、土屋弘道、斎藤昭博、小原華子、荒井直之、竹内拓海、他匿名数名

■団体様
横浜雙葉高等学校、川崎市立宮内中学校、香川県立観音寺総合高等学校、明治学院高等学校、世田谷総合高等学校、一般財団法人H2O サンタ

【キッズパワーサポーターご登録者様】(2017年11月・12月末日現在、ご寄付・決済いただきました方々です。)

大須賀康弘、中田悠志、平田由里江、柏木実保子、古池貴子、黒木武将、星史、柴山賢、薄井夏歩、河崎光佑、佐々木茜、坂下左知子、菱木信介、丸山勢衣子、長谷部利夫、松井鈴果、長束裕子、小林浩、久喜伸晃、三枝享祐、石川祥子、温井志朗、小池純充、藤谷正一、瀬戸口由子、多田聡、中山祐之、浅田忠久、山川優紀、中林理、野村淳子、川島三千代、小谷野嘉幸、鬼澤徹也、河本千代子、岩永圭一、平岡尚子、木村三郎、町井利子、小袋俊一郎、前田ひろみ、谷明子、原田幸子、原田美穂、宮下敏也、松本信子、青木英俊、座間博、合同会社ケーエスエムインターナショナル、他匿名数名

※クレジットカードでのご寄付をいただきました場合は決済システムの都合上、入金を確認するのに2か月ほど時間を要するため、名前が反映されていない場合があります。その場合は次号のニュースレターで名前を掲載させていただきます。

ご寄付のお振込みはこちら

銀行振込 三菱東京UFJ銀行 上野支店 普通 5360502 トクヒ) フリーザチルドレン
郵便振替 00120 - 5 - 161532 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

※お振込みいただきましたら寄付の使途の指定を通信欄に明記ください。※寄付のご指定がない場合は活動全体へのご寄付として受けさせていただきます。
※領収書希望の方は「領収書希望」と明記の上、お名前、ご住所、電話番号をご記入ください。

キッズパワーサポーター

継続的なご支援でフリー・ザ・チルドレン・ジャパンの活動を応援して下さる方々です。月500円からの任意の寄付額を設定していただき、クレジットカードまたは銀行自動引落による毎月(または毎年)定額寄付ができます。詳細はウェブサイトを参照ください。

プロジェクト寄付

事業別のプロジェクト寄付、地域をご指定いただく寄付も随時受け付けております。お振込みの際に指定先を明記いただくか、お振込後、事務局 (info@ftcj.com) までご連絡ください。

「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に WEFree The Children

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン / Free The Children Japan



WE マガジン 2018年3月発行 ●発行元 認定 NPO 法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 6-6-5 安藤ビル 3F

☎ 03-6321-8948

☎ 03-6323-6504

✉ info@ftcj.com

🌐 http://www.ftcj.com